

評価対象年度	平成20年度
--------	--------

施策評価シート

政策	2	施策	5
----	---	----	---

施策名	5 地域が潤う、訪れよしの観光王国みやぎの実現
-----	-------------------------

施策担当部局	経済商工観光部、総務部、農林水産部
--------	-------------------

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	2 観光資源、知的資産を活用した商業・サービス産業の強化
-------------------	-----	------------------------------

評価担当部局 (作成担当課室)	経済商工観光部 (観光課)
--------------------	------------------

施策の目的 (目標とする宮城の姿)	宮城の魅力が絶え間なく国内外に発信され、観光地みやぎのイメージが定着している。 自らの住む地域に誇りを持ち、観光のもたらす効果が県民に理解されるとともに、自然環境や食文化など地域の観光資源が磨き上げられ、観光客に対する質の高い受入体制が整っている。 外国人や高齢者、障害者、子ども連れなど、だれでも訪れやすい観光地づくりが進んでいる。 東北地方の観光の起点としての機能が強化され、東北各県と一体となって観光を推進している。 交流人口が拡大し、観光客入込数が2割程度増えている。
その実現のために行う施策の方向	「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」など、催し物や行事を活用した積極的な誘客活動の推進 インターネット等広報媒体の活用による効果的な情報発信や団塊の世代など対象を絞った戦略的な集客活動の推進 地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、だれもが安全安心に観光できる環境づくりの促進 観光施設及び案内板・標識の整備、バリアフリー・ユニバーサルデザインの普及推進 温泉や食材、プロスポーツなど宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光の発掘・整備 自然環境や伝統文化などを活用したグリーン・ツーリズム及びエコツーリズム推進体制の整備・支援 東北各県や関係機関との連携による観光ルートの設定など観光推進組織の強化

事業費 (単位:千円)	年度	平成19年度 (決算額)	平成20年度 (決算(見込)額)	平成21年度 (決算(見込)額)
	県事業費		112,941	200,364

施策に関する社会経済情勢等の状況 (全国・本県の状況、法令・条例・計画等策定の状況等について)

・観光産業は、大きな消費支出を生み出す総合的な基幹産業であり、国においては重要な施策の柱として観光を位置づけて「観光立国基本法」を制定し、さらに「観光庁」を設立して、観光立国の実現に向けて各種施策を展開しており、本県でも「みやぎ観光戦略プラン」を策定して観光の推進を図っている。

・都市と農山漁村の交流が必要との回答が、「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」(平成17年11月調査、内閣府政府広報室)で約8割を占めており、グリーン・ツーリズムに対する国民のニーズは大きい。

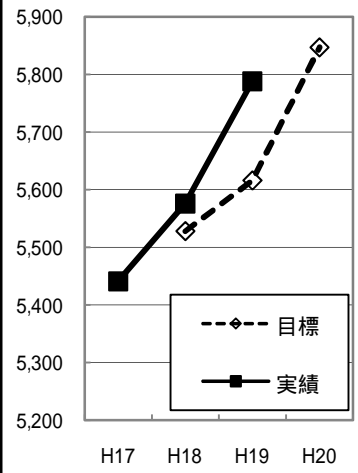
県民意識調査結果

調査対象年度 (調査名称)			平成19年度 (平成20年県民意識調査)		平成20年度 (平成21年県民意識調査)			
この施策 に対する 重視度	重 要	重視の 割合	31.5%	69.6%	33.9%	73.3%		
	やや重要		38.1%		39.4%			
	あまり重要ではない		13.1%		11.1%			
	重要ではない		3.4%		3.2%			
	わからない		13.8%		12.4%			
	調査回答者数		1,719		1,944			
この施策 に対する 満足度	満 足	満足の 割合	9.3%	45.5%	11.1%	52.6%		
	やや満足		36.2%		41.5%			
	やや不満		22.0%		19.1%			
	不 満		5.7%		6.3%			
	わからない		26.9%		22.1%			
	調査回答者数		1,708		1,944			
調査結果について			・重視度については、「重視」の割合が7割を超えていることから、この施策に対する県民の期待度は高いことがうかがえる。 ・満足度については、「満足」の割合が昨年度は5割を下回っていたものの、今年度は5割を超えており、この施策がより県民意識に沿って展開されてきていると言え、今後も事業を継続し、満足度をさらにアップしていく必要がある。					

目標指標等の状況

目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
1 観光客入込数(単位:万人)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	5,528	5,616	5,847
	実績値(b)	5,441	5,576	5,788	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	101%	103%	-
	達成度	-	A	A	-
県内市町村観光地点を訪れた年間観光客数。出展:観光統計概要					

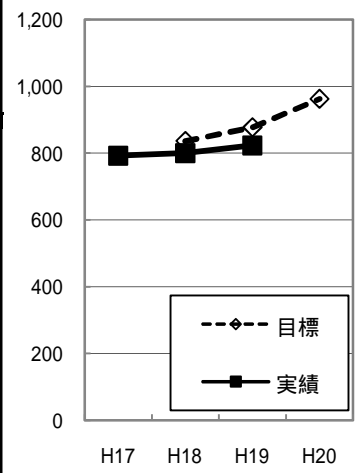


目標値の設定根拠
 ・「みやぎ観光戦略プラン」において、平成22年の観光客入込数の目標値を6,000万人と設定しており、当該目標値を設定する際に分析した各年の予測値を施策評価に当たっての各年度の目標値とした。

実績値の分析
 ・平成19年は、平成20年実施の「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」のプレキャンペーンを実施し、県内各地で様々な催しが行われた結果、観光客入込数は過去10年で最高となり、堅調に推移していると言える。

全国平均値や近隣他県等との比較
 -

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
2 宿泊観光客数(単位:万人)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	836	877	962
	実績値(b)	792	800	823	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	96%	94%	-
	達成度	-	B	B	-
県内宿泊施設における宿泊者数。出展:観光統計概要					

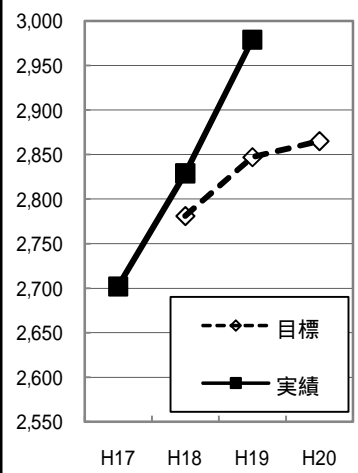


目標値の設定根拠
 ・「みやぎ観光戦略プラン」において、平成22年の宿泊観光客数の目標値を1,000万人と設定しており、当該目標値を設定する際に分析した各年の予測値を施策評価に当たっての各年度の目標値とした。

実績値の分析
 ・平成19年の宿泊観光客数は、観光客入込数同様、「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」プレキャンペーンの効果により、過去10年で最高となったものの、主要温泉地での減少などにより、目標を下回る増加となった。

全国平均値や近隣他県等との比較
 -

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
3 都市と農村の交流人口(単位:万人)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	2,781	2,847	2,865
	実績値(b)	2,702	2,829	2,979	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	102%	105%	-
	達成度	-	A	A	-
農業地域類型区分の都市的地域(11市町)を除いた観光客入込数					



目標値の設定根拠
 ・「みやぎ農業農村整備基本計画」により設定した平成22年目標値(2,900万人)と平成18年度実績値(2,829万人)を基準として、4年間で按分している。

実績値の分析
 ・仙台・宮城デスティネーションキャンペーンのプレキャンペーンが実施されたこと等により、観光客入込数が平成19年度までに着実に伸びている。平成20年度もデスティネーションキャンペーンの実施に伴い増加が期待できる一方で、岩手・宮城内陸地震の影響が懸念される。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・有効な指標が設定できず、農家民宿や公的宿泊施設を抽出した定点観測になっているため、比較は困難である。

施策評価(総括)

施策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由
・目標指標等、県民意識調査結果、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたか(「目標とする宮城の姿」に近づいているか)。	概ね順調	・目標指標等の「観光客入込数」及び「都市と農村の交流人口」については、いずれも、昨年度に引き続き、年度の目標値を上回っており、目標達成に向けて順調に推移していると解される。 ・目標指標等のうち「宿泊観光客数」については、年度の目標値を下回ったものの増加傾向にあり、方向としては目標達成に向かっていていると言える。 ・デスティネーションキャンペーンなどを契機に、グリーン・ツーリズムと観光行政との連携が進んできている。 ・県民意識調査における満足度も上がってきており、「満足の割合」が5割を超えている。 ・以上のことから、施策の進捗状況は概ね順調と判断する。

施策を推進する上での課題等と対応方針

事業構成について	事業構成の方向性	方向性の理由
・施策評価の結果、県民意識調査結果、社会経済情勢及び事業の分析結果(必要性・有効性・効率性)から見て、施策の目的を達成するために必要な事業が設定されているか。事業構成を見直す必要はないか。	現在のまま継続	・県民意識調査結果では、昨年のDCのような全国向けの大型観光キャンペーンなどの催事等を活用した積極的な観光客誘致や「もてなしの心」向上のための取組強化について、優先的に取り組むべきとする回答が多いことから、継続して事業を実施すべきである。 ・都市住民のグリーン・ツーリズムに対する需要が引き続き高いため、事業を継続する必要がある。

施策を推進する上での課題等 施策が直面する課題や改善が必要な事項等(の事業構成に関する事項を除く。)

・「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」での成果を一過性のものとしないうように、引き続き観光客誘致に積極的に取り組んでいく必要がある。
 ・グリーン・ツーリズムについては、活動実践者が、十分な所得確保の困難さ、後継者不足、支援体制の弱さ等から、活動継続における不安要素を抱えている一方で、子ども農山漁村交流プロジェクト等の新たな施策への対応を見据えた支援が必要になっている。

次年度の対応方針 及び への対応方針

・「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」の理念を踏襲し、県内全域を対象とした短期集中型の観光キャンペーンの実施を核とした事業を展開し、地域における観光客の受入体制の定着と観光地としての自立の支援を図る。
 ・近年、減少を続ける農業所得の確保対策という面も含め、みやぎ型グリーン・ツーリズム行動計画(第2期:H21~H24)に基づき、各種農村振興施策を活用した「集落」ぐるみのグリーン・ツーリズムの推進、市町村単位の地域推進組織の設立及び育成に向けた支援体制の強化を図る。

施策を構成する事業の状況 (事業分析シートより)

事業の状況					事業の分析結果			次年度の方向性	
番号	名称 (担当部局・課室名)	県事業費 (決算見込、 単位:千円)	活動の状況 (活動指標)		成果の状況 (成果指標)	必要性	有効性		効率性
1	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進事業 経済商工観光部・観光課	69,100	仙台・宮城DC推進協議会会員からのDCに向けた事業提案件数	1,117件	観光客入込数 57,877千人	妥当	成果があった	効率的	縮小
2	首都圏ラジオ広報事業 総務部・広報課	24,113	放送回数	52回	観光客入込数 57,877千人	概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持
3-1	外国人観光客誘致促進事業 経済商工観光部・観光課	4,241	-	-	外国人観光客宿泊者数(中国・韓国・台湾) 59,495人	妥当	成果があった	概ね効率的	維持
3-2	観光客誘致ステップアップ事業 経済商工観光部・観光課	1,902	-	-	外国人宿泊者数(香港) 30,437人	妥当	成果があった	概ね効率的	統合・廃止
4	みやぎの観光イメージアップ事業 経済商工観光部・観光課	5,803	修学旅行誘致説明会等の開催件数	6件	観光客入込数 57,877千人	妥当	成果があった	効率的	維持
5	秋の行楽 みやぎ路誘客大作戦 ~ 秋色満載みやぎ・やまがたの観光 ~ 経済商工観光部・観光課	非予算的手法	案内所利用者数	2,171人	観光客入込数 57,877千人	妥当	成果があった	-	維持
6	みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業 経済商工観光部・観光課	1,427	みやぎ観光コンシェルジュ委嘱者数	21人	観光客入込数 57,877千人	妥当	成果があった	効率的	維持

7	みやぎ「観光ノススメ」推進事業 経済商工観光部・観光課	1,072	配付部数	5,000部	観光に関する授業・勉強会の実施回数	3回	概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	統合・廃止
8	みやぎ観光戦略受入基盤整備事業 経済商工観光部・観光課	71,019	整備箇所数	57箇所	観光客入込数	57,877千人	妥当	成果があった	概ね効率的	維持
9	広域観光ルート(観光レンビ)活用事業 経済商工観光部・観光課	467	旅行商品パンフレットへの掲載やマスコミでの放送・記事掲載数	14件	観光客入込数	57,877千人	妥当	成果があった	効率的	統合・廃止
10	地域産業振興事業(再掲) 経済商工観光部・富県宮城推進室	17,612	-	-	-	-	妥当	成果があった	効率的	維持
11	グリーン・ツーリズム促進支援事業 農林水産部・農村振興課	3,608	アドバイザー派遣件数	24回	都市と農村の交流人口	2,979万人	妥当	成果があった	効率的	拡充
事業費合計		200,364								